

第33回全史料協全国（茨城）大会を終えて

茨城県立歴史館 富田 任

茨城県内への呼びかけ

全史料協全国（茨城）大会は11月20日～22日の3日間、茨城県立県民文化センターと茨城県立歴史館を会場として、「アーカイブズの新時代へー個性ある存在をめざしてー」をテーマに開催されました。参加者は244名で、茨城県内からの参加者が45名を数えたことは特筆できることでしょう。これは、当館が昨夏に県内の各市町村長訪問を実施した成果ではないかと考えています。その際には、歴史資料として貴重な公文書の適正な保存をお願いし、絶好の研修機会として全史料協全国（茨城）大会を紹介し、参加を呼びかけました。

また、茨城県市町村史料保存活用連絡協議会（茨史協）に対しても、大会への協力をお願いし、多数の参加をいただきました。

節目の年

昨年は公文書館法制定20年目の節目の年でした。参議院議員として制定に尽力し、全史料協初代会長でもあった元茨城県知事・岩上二郎氏に縁深い本県で、この年に全国大会が開催できたのは有意義なことでした。このような折り、9月には公文書館推進議員懇談会の代表世話人を務めていた福田康夫氏が内閣総理大臣となり、その後、年金記録消失や薬害肝炎問題から文書管理法制度の整備が話題となるなど、公文書を取り巻く新たな動きが生まれております。

県民文化センター

茨城大会開催が内定したのは、平成17年度のことでした。当時の下林全史料協会長が茨城県立歴史館を訪問され、今大会で開会セレ

モニーの開催県代表あいさつを述べた稲葉教育長が、当時歴史館長として開催を受諾しました。

準備の第一歩は、会場確保です。300人規模の総会が可能で、三分科会会場と広い展示スペースを有し、使用料が低廉である等の諸条件を考慮すると、会場は茨城県立県民文化センター以外には考えられませんでした。ところが、ねんりんピック開催年にあたる平成19年の秋は、2年前にすでに予約が入っており、準備日を含めた連続3日間を確保できたのは、この大会の期間だけでした。



ここは水戸駅から徒歩15分とアクセスも良く、宿泊や反省会に不便はなかったと思います。ただし、施設面では会場3が分館で、移動に面倒をお掛けしたこと、発表・司会・記録者の打合せ場所が、委員控室と共用となり、やや手狭だったことが反省点です。さらに、会期が11月下旬で、冷え込み始めており、暖房を入れても寒かったという意見も若干耳にしました。

岡山・福井に感謝！

大会運営にあたっては、直近の2大会を参考にしました。前回の岡山大会の事後処理が一段落した時期に岡山県立記録資料館を訪問して、大会に関わる貴重な情報を聴取させて

いただきました。また、その際にご提供頂いた文書データ等は、今大会では事務処理の迅速化に大いに寄与しました。

準備を進めて行く上で、疑問が生じた場合は、岡山や前々回開催県の福井にすぐに連絡を取り、情報を集めました。大会企画委員に、開催県経験者がいるのは、何かと心強かったです。岡山県立記録資料館、福井県文書館の方々には、多くの貴重なご教示を賜りました。この場を借りてお礼申し上げたいと思います。ありがとうございました。

今年度の茨城大会の経験も、次期開催県の奈良県、県立図書情報館に順次引継いでいるところです。

懇親会

資料保存に携わるものにとって、情報交換のネットワーク形成の場として、全国大会の懇親会は恰好の場であるといえるでしょう。今までに自分が参加した種々の大会の記憶を紐解いても、その役割は大きく、そこで出会った人の印象は忘れません。「懇親会も全史料協大会の重要な一部である」という心構えで準備に臨みました。

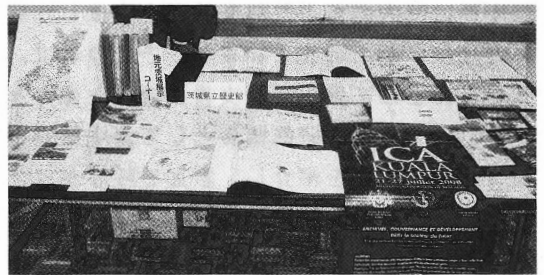
昨年度は、岡山県の努力で参加費を下げられました。今年は予約した会場の関係から、従来の参加費に戻さざるを得ませんでした。それならば「うまいもんどころ茨城」を存分に堪能していただこうと企画しました。茨城県産の肉・魚・野菜を用いた料理の提供を注文し、さらに自分たちが集めた地酒を並べたコーナーを設け、蔵元が分かる地図資料を作成し、その場で配付しました。忙しい中での準備ではありましたが、茨城をPRする絶好の場と考えて、「こだわり」を持ち、「愉み」ながら行いました。ご参加いただいた方には、茨城の良さがおわかりいただけたことと思います。

苦労した事務処理及び会計処理

最近の大会に倣って、今大会においても、

参加費・懇親会費を含めた会計業務を、宿舍取扱業者に一部委託しました。選定にあたり、1件当たり取扱手数料と宿泊価格の設定を検討比較し、決定しました。

参加申込みの締切は10月5日でしたが、期日を過ぎても次々と申込みが続き、それに伴い遅れる会計処理に苦勞しました。また、参加費の公費支出の方式が機関によって様々で、当日の持参や大会終了後の振込みのお願いもありました。請求書や領収書についても、様々な書式での対応が必要で、非効率的であったと感じました。今後、この件については、特に改善の必要があると思います。



機関会員展示

今年は、許諾をいただいた方のみに限定して、氏名・所属機関を掲載した参加者名簿を配付しました。昨年度、大会で名簿が作成されなかった（実際は、懇親会で、その参加者名簿が配付されました。）ことについては、総会の席をはじめ、会報や『地方史研究』等にも指摘があり、会員相互の情報交換の資料として作成したものです。利用にあたっては個人情報保護に十分ご留意いただき、名簿が当会の目的である、歴史資料の保存利用活動の振興に寄与できることを願っています。

開催県担当として、恥ずかしくない大会にしようと、準備に携わりましたが、途中何度も非才を痛感しました。しかしながら、皆様のおかげで、何とか成功裏に幕を閉じることができたと感じております。皆様、どうもありがとうございました。

写真提供：鈴木陽生（奈良県立図書情報館）、
安藤文雄（鳥取県立公文書館）ほか